

新聞記事を利用したり、新聞作りを取り入れたりした国語授業のあり方

実践校第1年次 大町市立第一中学校 中山 実

1 本校のNIEの実態

個人的には、教師としてのスタートから、新聞コラムや社説を利用したドリルや4コマ漫画の利用など続けてきている。そして、ここ数年来、NIE (Newspaper in Education) という言葉そのものと、指導法に心を惹かれ、国語科の授業の中に取り入れてきた。前前任の小学校(学年での取り組み)、前任の中学校での実践(国語科としての取り組み)から、新聞記事を利用したり、新聞作りを取り入れたりした国語の授業は効果的であると、確信に近いものを得ている。

本校に赴任して来て、基礎的基本的な学力の低さはもちろん、基本的な学習姿勢の欠如に驚き、思い切った授業の見直しの必要性を痛感した。本校の教科教育の研究課題の中に「教科の楽しさ」という言葉がある。しかし、生徒の国語力の実態は、「楽しさ」以前のところに課題があると思われたのである。

国語科では、昨年度は、授業の始めに漢字10問ドリルテストを行っていた。毎日の家庭学習の課題として「漢字練習1ページ」を約束しての7分間であった。しかし、提出率を成績に組み入れても、なかなか伸びず、漢字の定着率も低かった。家庭学習の習慣が身につけていない生徒が多かったことも事実である。家庭学習は期待できない。では、授業の中で力をつけるにはどうすればよいか。これが今年度の課題であった。

そのなかで、NIEに関わるような活動は、既に中日新聞社で取り上げられたように、総合的な学習における活動新聞作りや国語科での新聞作り、新聞記事の利用、および、社会科での歴史新聞作りや切り抜き活動がある。しかし、生徒の多くは、日常生活の中で新聞を読むことはほとんど無く、新聞を購読していない家さえクラスに数軒あった。

2 NIEで高めたい力

そんな時に、NIE 実践校の募集があった。また、教科書単元の中での「新聞作りの学習が楽しかった。」という生徒の感想があったことなどから、うまく続けられたらおもしろいだろうと考えた。毎日、ほとんどの家庭に送られてくる活字媒体を利用して力をつけること、そして、生徒自身の表現力を高めることが目的である。

3 研究の概要

(1) 実践した教科

本校では、国語科の実践として報告する。

(2) 新聞の提供状況

8月下旬より4紙、11月から7紙が学校に届き、図書館前の廊下に並べておいた。案内も置き、呼びかけの言葉や日報での紹介、日曜版の掲示等行った。

家に毎日届けられる新聞であっても、読まなかったものが、毎日、新聞を決めて読んだり各新

聞に目を通すようになった生徒が増えてきている。さらにこの利用の工夫が必要であるが、来
年以降の課題としている。(ほしい記事、興味ある記事の希望があればそれに応えるというよ
うな)

(3) 新聞を取り入れた授業をする上での工夫

全学年共通の実践であること

一教師だけの実践ではない。全校生徒の実態から浮かび上がってきた問題点の克服のため
に、この学習が有効であると考えて実践するのであるから、全学年、国語科としての取り
組みである。

単元学習として年間計画に位置づけること

のような取り組みであるので、各学年の年間計画の中にそれぞれ位置づけての実践で
ある。

系統性を持たせること

同時期に全学年で実践を開始しているので、初年度は無理だが、2年後には中学校3年
間を見越した指導過程を整える予定である。

4 具体的な実践

(1) 国語科の授業の中での新聞作り(昨年からの実践)

昨年度の実践もふまえ、どの学年にも新聞作りをする単元を設定した。

まず、3年生が、修学旅行新聞を作った。教科書単元「社会をとらえる」の中での学習活動
である。新聞の特長を生かしながら、自分たちの修学旅行の体験を記事にして伝える活動だが、
文字数2000字ほどになるB4版の新聞形式 FAX 原稿用紙を規準にした。4ミリ原稿、5
ミリ原稿を用意して生徒に選択させた。(5ミリ方眼では1500字ほどになる)新聞作りの
経験がなかったので、教科書も参考に、構成や見出し、リード文の意味などを押さえながら作
成させた。

次に、同じく3年生で、「奥の細道」新聞のグループ制作をした。奥の細道の壮大な旅程の
あらましをつかむ意味合いと古文に多くふれる意味合いを持たせている。

さらに、魯迅の小説「故郷」を読み深めるために、「故郷新聞」を作った。あらすじをとら
えた後、各自が、登場人物や故郷そのものにテーマを絞っての新聞で、主題に迫るための手段
として利用している。普段授業に集中できず、作品に浸ることのできない生徒の一人が、「俺、
こんなに真剣に小説を読んだこと無いよ。」と感想を述べた。

二年生では、古典単元での発展学習として、新聞作りを取り入れた。「枕草子」「徒然草」
の教科書掲載段を学習した後、その他の段について、教師の案内を手がかりに他の段を読み、
原文、現代語訳を入れながら新聞とするものである。教科書掲載文が少なくなった古文に触れ
させることと、筆者の思いを様々な角度から考えさせるためである。特に徒然草を題材とした
新聞に、筆者の思いに迫る作品もあった。

一年生では、「言葉を探検する - 調べたことを発表する -」単元において、「大仏様
は『にっこり』しています」の学習の後、各人の興味のある言葉について調査し、言葉新聞を
作り発表した。(調査活動に3時間、新聞製作に2時間、発表等に1時間)自分が発見した内
容を見出しにする生徒もあり充実したものができている。

(2) 授業の中での新聞記事の利用

新聞記事を利用しての授業については、まだまだ不十分と考えている。コラムの音読みや4コマ漫画、一枚の写真の利用、クイズ欄の利用を散発的に行って、新聞に対する興味関心を惹かせる程度である。その中で、積極的に利用を図ったのが次の2項目である。

新聞記事を利用してのレポート 1年生

単元「真実を語る」において、「未来をひらく微生物」の学習の後、「調べたことを伝えよう レポートにまとめる」の学習の根拠を新聞記事に求めさせた。夏休み中から、環境問題に関わる新聞記事をスクラップさせておいた。いくつか集まった記事の中から特に興味を持った記事について、さらに記事を探したり、図書館での調査を付け加えながらレポートとした。手順を追って行くことの大切さを、ひとつの問題を追っていくことの大切さを知らせたかった。ひとつの記事をきっかけに熱心に調べるものがある一方、記事の見つけ方に抵抗を覚えるものもいたり、中間の調査に比して文としてのまとまりに欠けたレポートに不足も感じた。「先生からもらった記事役立ったよ。」という生徒の声、「難しいけれど、おもしろい。」という感想が多かった。

新聞コラムの書き取り

前述のように、家庭学習を期待するのではない、授業の中で力をつけるための工夫のひとつとして、以前から温めていた構想のひとつである「コラムの書き取り」= 試写を続けてみた。ノートを用意し、全学級、授業の最初に5分間書き取りをする(次頁・資料1参照)。試写できた字数を数え、記録して終了する。難語句や漢字について教師が板書したり、後期においては音読も組み込んでいる(慣用句や学校の中ではあまり使われないような表現について辞書でその意味を確認もしている)。

ほとんどの生徒が5分間の書き取りに集中でき、さらさらと書き取る音だけが流れる時間となった。その結果は、別表に示すように、「早く書けるように」なり、音読がスムーズになったと私は感じている。生徒のアンケートからは黙読が早くなり漢字も身につけてきているという声も多い。

また、新しい記事を読むことが楽しみになったという声も多いことから、新聞記事の利用の意義を見ることが出来る。まだ、活動の途中であり、明確な成果はわからないけれど、「継続は力なり」を期待して続けていきたい。

5 3学年の故郷新聞作りの実践

日時 平成19年11月28日(木)5校時

授業学級 3年2組35名(男子16名女子19名) 授業者 友野里奈 教諭

1 単元名「状況に生きる」

2 教材名「故郷」(魯迅)

3 単元目標

(1) 登場人物一覧を作ったり、あらすじを書いたり、「故郷」が書かれた頃の時代背景を調べたりすることによって、情景や登場人物の心情を読み取ることができる。(読むこと)

(2) 新聞記事の書き方を学ぶことによりリード文や本文の書き方を知り、効果的な新聞記事を書くことができる。(書くこと)

(3) 友達の新聞記事を読み、記事の内容や書き方について意見や感想を発表し合うことによって、同じテーマを設定しても様々な文章の捉え方があることを知ることができる。

(話すこと・聞くこと)

4 単元の展開（16時間扱い）

段	学 習 活 動	指 導	時間
一 次	教科書教材「故郷」を読んで書かれた頃の時代背景を考えながら内容をつかむ。	・登場人物の20年前と現在の様子の変化を大まかに把握するために、登場人物一覧を作ることを確認する。 ・「故郷」のあらすじを書きまとめることによって文章全体の内容を把握したかを確認する。 ・時間の变化により人物の様子が变化したことに着目させ、「故郷」が書かれたころの時代背景を調べさせる。	6
二 次	新聞記事の書き方を学ぶ。	・新聞記事のリード文や本文の5W1Hを確認をさせる。また、見出しや本文の内容を読み、実際にリード文を書くことを通して新聞記事の書き方を学ばせる。	2
三 次	文章の読み取りから各自がテーマを設定し新聞を作成する。	・文章中の情景や登場人物を描写する語句や表現に着目してテーマを設定し、叙述を根拠として5W1Hの形式で書くことと私の考えを記事の1つとして書きまとめることを確認する。 ・テーマ別グループに分かれて、テーマへの着目の仕方や記事の書き方について意見や感想を発表し合う。それを元に推敲を行うことを確認する。	7
四 次	完成した「故郷」新聞をグループで相互評価する。	・記事の内容（私の考え）と新聞記事の書き方の2つの視点に着目して相互評価を行わせる。（本時）	1

5 単元の評価規準

- (1) 登場人物を描写する語句や表現そして情景に着目して登場人物の変化を読み取ったり、その変化の裏側にある時代背景を調べたりすることを通して、文章全体の内容を明確に把握している。
(読むこと)
- (2) 新聞のリード文や本文の書き方を学び、5W1Hの形式で記事を書こうとしている。
(書くこと)
- (3) 叙述から読み取ったことを根拠として、自分なりの考えをまとめている。
(読むこと、書くこと)
- (4) 友達の新聞記事を読み、「故郷」の読み取り方や記事の書き方の工夫を見つけて感想を言い合ったり、助言し合っている。また、助言されたことを聞き取り、内容に即して自分の意見を言おうとしている。
(話すこと・聞くこと)
- (5) 友達の新聞を読み、2つの視点に着目して評価やコメント書きをしようとしている。
(読むこと・書くこと)

6 本時案

(1) 主眼

「故郷」の読み取りのために新聞にまとめた生徒たちが、同じようなテーマを設定したグループの仲間と相互評価する場面で、書き手の考えと新聞記事の書き方に着目し読み合うことを通して、新聞形式でまとめたことにより読み取りが深まったことが実感できる。

7 本時の評価規準

私の考えと新聞の書き方の2つの視点を明確にして相互評価をした友の意見から自己評価する。

(2) 本時の位置 16時間中16時間目

前時：各自新聞を完成させ、2人ペアになり誤字脱字の確認を行う。

(3) 指導上の留意点

私の考えと新聞記事の書き方の2つの視点が相互評価の場面で混同しないように、手順の確認の段階でしっかりと全体に確認しておく。

8 展開

段階	学習活動と予想される生徒の反応	教師の手だてと支援・評価	時
課題把握	1 本時の学習内容を把握する。 学習問題 完成した「故郷」新聞をグループで相互評価しよう。	・学習問題を板書し、以前話し合いを持った同じようなテーマを設定したグループで発表しあうことを確認する。 ・友がまとめた新聞の「いいな」と思った所を取り上げることを確認する。 *学習グループ割と発表の進め方プリント	10
	学習課題 発行者（私）の考えと新聞記事の書き方の2つの視点に着目して相互評価しよう。		
追究	・私の考えも新聞記事の書き方も「いいな」と思った部分を評価するんだ。 ・似たテーマだけど、友達が書いた「私の考え（私の視点）」はどんなふうにまとめてあるのかな。 2 グループごとに読み合い、相互評価を行う。 私の考えについて 下條・中村・山岸・傳刀グループ ・「わたし」の視点から書かれている叙述を「ルントウ」の視点から二人の間でできた壁について書かれているのが、おもしろい。（その壁を作った原因が「ル	・新聞の書き方について学習してきた教材と本文の内容について学習してきた教材を提示する。 ・グループでの相互評価のし方の手順を確認する。 ・回し読みの際、自分がまとめた新聞と一緒に学習カードを回して、そのカードに評価とコメントを書いてもらうよう指示する。 友達の学習カードへ2つの視点に着目して評価やコメント書きができたか評価する。	30

ントウである」と考えたからだろう。) 中村へ
 新聞の書き方について
 曽根原へ ・本文の文中に(図1)の説明が入っているのが、本物の新聞みたいだ。
 宮嶋へ ・リード文の配置が工夫してあるし、5W1Hがしっかりしているな。

3 本時の学習を振り返り学習シートに書く。

・教科書の叙述とは違った視点でまとめたことをみんながおもしろいと評価してくれて嬉しかった。

・新聞にまとめるのに、たくさんの時間がかかって大変だったけど、何度も教科書を読んで少しは登場人物の気持ちが変わった気がする。

2つの視点からの評価が明確に書けていない生徒には、明確に書けている生徒のコメントに着目するよう促す。

・友達が評価してくれたものを確認して、自分がまとめた新聞の自己評価をする。

・相互評価をもとに、自己評価してみた感想を発表させる。

・友達が評価してくれたものを確認して、自分がまとめた新聞の自己評価をする。

・相互評価をもとに、自己評価してみた感想を発表させる。

・次回の学習予告をする。

6 学習へ向かう生徒の姿

N.S生の学習カードから
 友達からの評価のコメント

Y.N生、S.H生から
 「二人の間に壁を作ったのはルトウ。」という部分になるほど!と思った。(共感した。)

D.M生から
 ルントウの気持ちを「罪悪感」と表しているところがいいと思った。ルトウの視点から書かれているのでおもしろかったが、新聞というより違う物語を読んでいるような感じがした。



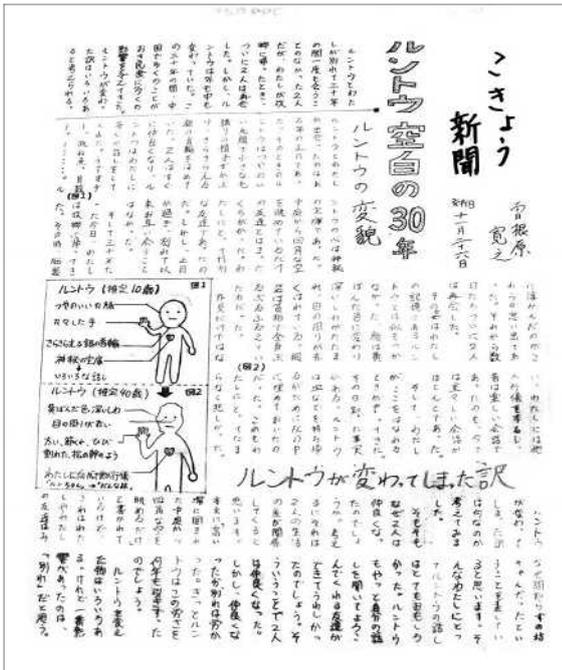
自己評価のコメント

自分は他の人と違ってルントウの視点から書いた。それを評価してくれて良かった。記事の書き方については、初めは字数が600字になってしまい文をカットするのに苦労した。文をカットしたせいでわかりにくくなる所があるか心配だったけど、わかりにくくなっていないと言ってもらってよかった。

友達からの評価コメント

K.Y 生から
ルントウの30年前と今がしっかりと説明されている。他人行儀にされた時の「わたし」の気持ちを「思い出を大切にしている胸が痛む。」とNくんの言葉で書かれていていい。

N.K生の学習カードから



自己評価のコメント

本文の内容は「・・・で胸が痛む」のところがほめてもらえたので、うれしかった。わたしとルントウの間にできてしまった壁についてルントウが他人行儀になった理由やそれについてわたしが思ったことなどを、自分なりに考えて書いてよかった。
この単元では、最初に「故郷」を読んで、内容がわからなかったが、読むたびに文の内容やわたしやルントウなどの人物について読み取れた。そこから、わたしの心境の変化や昔の友達のルントウに対する思いが自分なりに考えられてよかったし、いろいろな考えが浮かんできて楽しかった。

7 授業の考察と今後の課題

・文章の内容を何度も繰り返し読み取り、情景や登場人物についてしっかりと読み込まないと正確な新聞記事としてまとめられない。その点で、多くの生徒が自分で設定したテーマに沿った文章中の語句や表現に着目してよく読もうとしていた。また、文章の読み取りを深めるための手段として新聞を使うことにより、限られた字数で叙述を根拠に自分の考えをまとめなければならないので、何度も推敲を重ねて読み手に分かりやすく伝わるための文章表現を考えていた。

新聞は読み手に正確な情報を伝える必要がある。だから新聞は、読み深めの学習にとっても効果的であると考えられる。読み手に間違った情報を与えないためには、発行者は自分自身の読み取りの段階で、正確に情報を読み取らなければならない。また間違った情報を伝えないために、たくさんの情報を入手しておく必要がある。つまり、丹念に読むことをしなければならないので、読むことの力をつけるために効果的な学習方法である。今回は文学的文章の読み取りの手段として扱ったが、論説・説明文の読み取りに新聞を使ってもおもしろい。来年度に試みたい。

・本時は単元展開の最終時として完成した新聞をグループで相互評価を行った。しかし、それより3時間前の下書きの段階で自分の記事を推敲するために、テーマ別のグループで意見や感

想を言い合った時のほうが、お互いの考えを口にしたり、自分では考えつかなかった視点での書きぶりをみたりして活気のある授業となった。

ただ相互評価で終わってしまうのではなく、さらにその先の課題を見いだせるような展開場面を大事に授業をしたい。

8 成果と今後の方向

新聞記事の特徴として

5W1Hが明確である述べ方

「はじめ、なか、おわり」あるいは「起承転結」という構成の明確さ

即時性、話題性に富む

伝えての意図があり、伝え方が表現となって表れる。(見出し)

要約文がある(リード文)

加えて、語彙の獲得、増加につながる

というようなことが挙げられる。そして、生徒は特にその新鮮さや話題の豊富さに惹かれていくことがわかってきた。また、音声表現としての発表より、紙面による発表の方が「気楽」と感じているようだ。これら、生徒たちの特性と新聞記事や新聞作りの活動の良さを授業の中でさらに活かせるような工夫が来年度への課題である。

さらに、楽しみながら力を高める学習としても効果的であると見えてくるので、記事の利用を積極的に取り入れた活動を仕組む予定である。

9 参考および資料

アンケートから

(1) 新聞記事や新聞作りを取り入れた授業に関わって

授業に集中して取り組めた生徒 92% 見出しの工夫ができた 77%

リード文を理解した(要点を書けた) 74% 構成が工夫できた 70%

見出しの工夫ができた 77% 学習に満足できた 77%

(2) コラムの書き取りを続けて

集中できた 98%

書き取りを続けてきて身についたと感じたもの

ア 早く書けるようになった 75% イ 黙読が早くなった 40%

ウ 漢字の読みが身についた 34% エ 記事の内容理解が早くなった 30%

オ 漢字を書けるようになった 30% カ 音読が早くなった 18%

キ 新しい記事を読むのが楽しみだった 35%

(3) 新聞を置いたことについて

毎日読んでいる生徒は5%と多くないが、家で新聞を読むようになったと答えた生徒は、60%であった。